

(参考資料) ③

CS導入による地域とともにある学校づくり

伊達市教育委員会
教育部参与 櫻井貴志

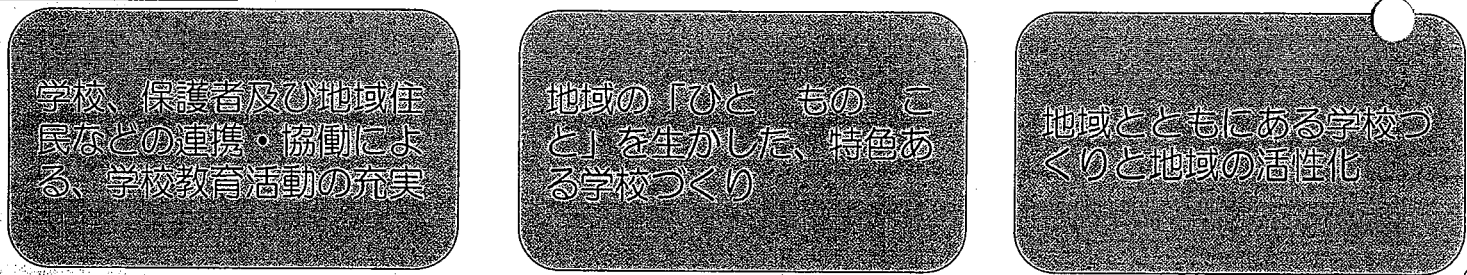
学校運営協議会設置の背景

現在、少子高齢化が進み、学校規模や学級規模は一昔前と比べると小さくなってきている。しかし、学校が果たす役割、社会的な要求は逆に高まってきており、「学力向上」「体力向上」「生活習慣」「英」「保護者対応」等々、様々なことが求められている。これらのことを学校がすべて対応することは、ほぼ不可能に近く、教員一人一人の負担感が増してきている。

そこで本市では、学校に求められている（言い換えると抱えきれない）ことを地域・保護者にも協力いただいて解決していこうと考え、すべての学校が、地域の人々と目標を共有した上で、地域と一体となって子どもたちを育て「地域とともにある学校づくり」を目指すこととした。

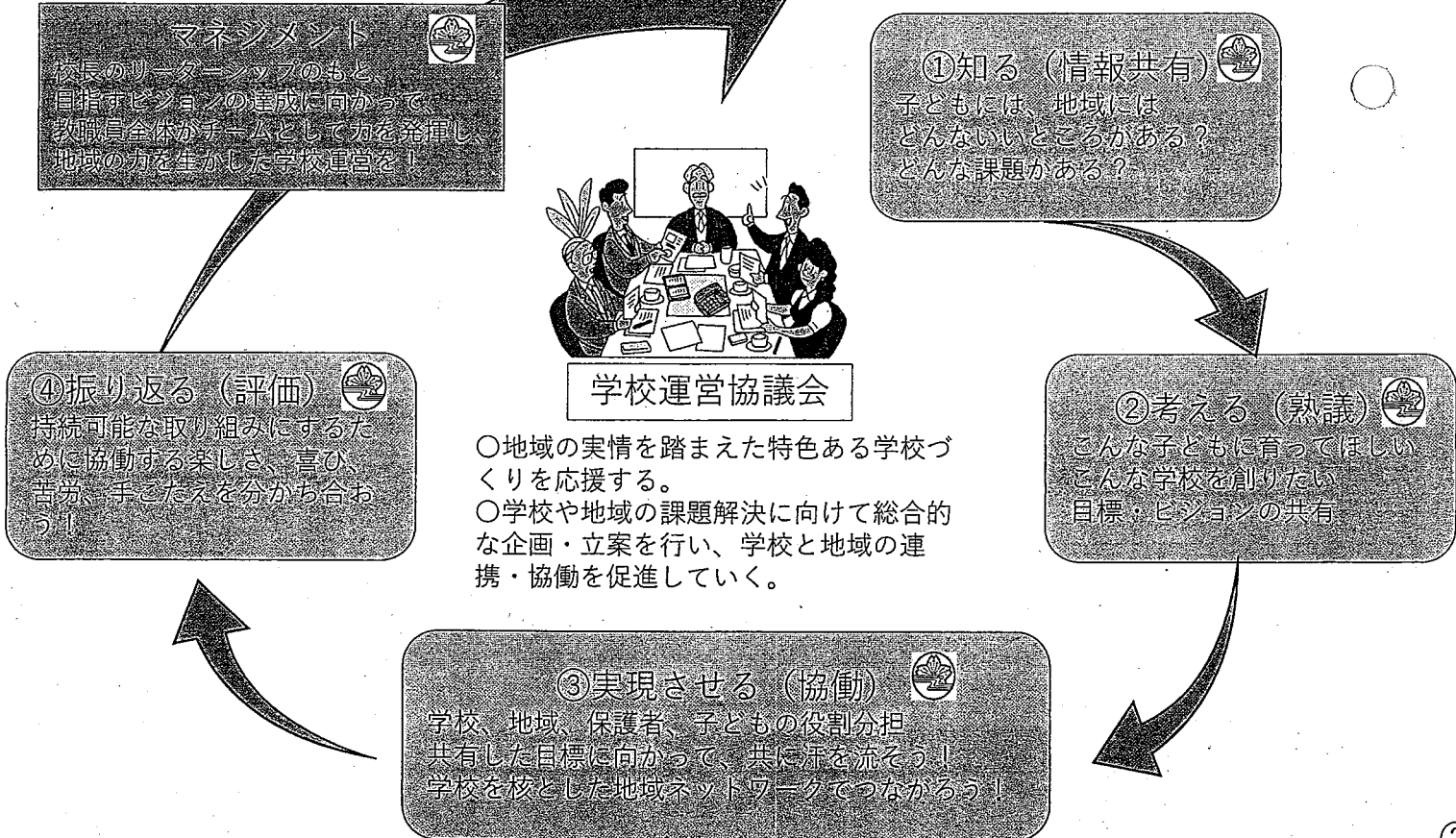
また、少子高齢化の影響は地方に行けば行くほど大きくなってきている。町の過疎化が進み、人が少なくなっていくにつれて市全体の活力も低下してきている。そこで、地域コミュニティの核となることが期待される学校を活用して、地域の活性化を図ろうと考え、その手段として学校運営協議会の設置を決定した。

② 設置の目的



伊達のみんなで・・・

学校と地域のさらなる連携・協働に向けて



①知る (情報共有)

子どもには、地域には
どんないいところがある？
どんな課題がある？

学校の実態

→行事・教育活動

- ・地域の協力を得て実施していること
- ・地域の協力を今後得たいこと

例: 世代間交流、総合的な学習、環境整備、クラブ活動、放課後学習、登下校の安全確保

→学力・体力等の現状

- ・それぞれの課題を分析し、地域の協力が効果を生みそうなこと

例: 運動能力テスト補助、放課後学習、竹馬教室、長期休業中の補習

→家庭の教育力

- ・早寝早起き朝ご飯、ゲーム・スマホ、しつけ、家庭学習、学校行事への参加

→職員の構成

- ・本来であれば考慮しないが、導入時には大切な要素



学校運営協議会

地域の実態

→町内会活動

- ・どのような組織があるか
- ・学校が参加できる(している)行事
- ・活動が活発か

→地域の間人関係

- ・中心人物は
- ・地域間のつながり

→学校を支援する活動

- ・社会教育は
- ・似たような事業は

→住民

- ・学習に協力いただけそうな人材
- ・民生児童委員などの福祉関係者
- ・学校に協力的な人

→地域文化

- ・伝統芸能
- ・史跡

③実現させる (協働)

学校、地域、保護者、子どもの役割分担
共有した目標に向かって、共に汗を流そう！
学校を核とした地域ネットワークでつながろう！

ステップ3「地域への支援」

地域のために学校ができることを整理する
・これまでの地域への協力活動を生かす
・地域の要望を聞く

学校運営協議会で必ずしなければならぬことは「基本方針の承認」だけです。先進地の華やかな取組をそのまま自校で実施する必要はありません。

ステップ2「学校への支援」

運営協議会の組織を整理する
・これまでの行事や地域の財産を生かす
・地域のひと・もの・ことを学校教育に生かせるよう組織を編成する

ステップ1「熟議」

学校運営の基本方針の承認

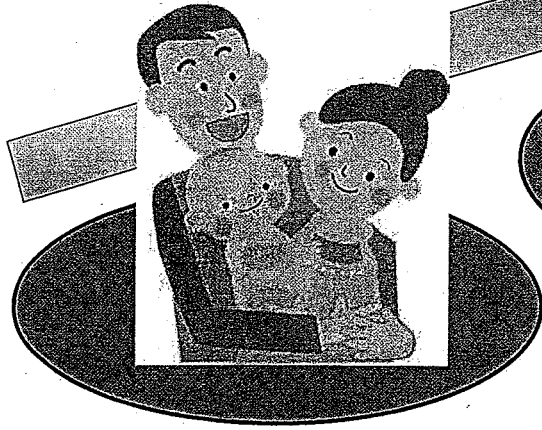
・校内で提示する資料を基にシンプルに作成する
・この段階で、学校の現状、家庭・地域の実態からどのような学校運営協議会にするか構想する

②考える (熟議)

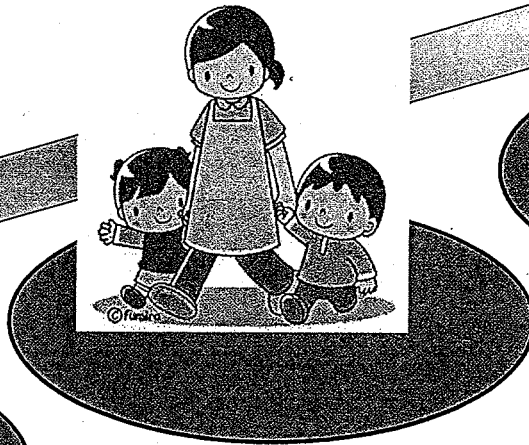
こんな子どもに育ってほしい
こんな学校を創りたい
目標・ビジョンの共有

CS導入の一因

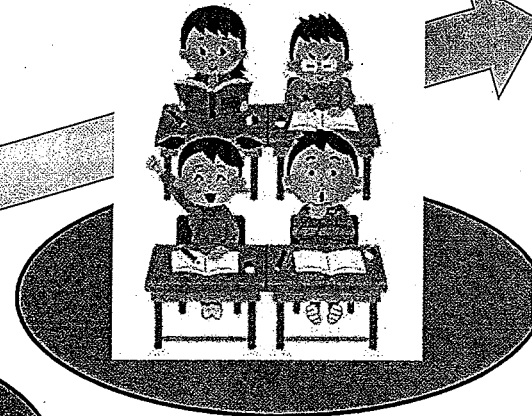
3



家庭で生まれ



地域にデビューし



学校で学ぶ

教育の領域は「家庭」「地域」「学校」。この順番は人間の成長に合わせた環境である。家庭で生まれて地域にデビューし、学校に入学する。そのため、家庭と地域には、子どもを学校に上げるまでに、基礎力を育てておく義務がある。

⑤

CS導入の一因

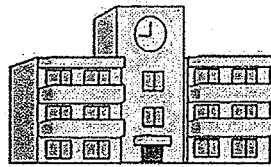
しつけ

生徒指導

安全教育

学力向上

不登校



いじめ

体力向上

豊かな心

部活動

保護者対応

外部との調整

調査物

- 国の方針～チーム学校
- ◎スクール・ソーシャルワーカー
 - ◎スクールカウンセラー
 - ◎部活動指導員
 - ◎地域連携担当教職員等の配置

⑥

CS導入の一因

4

地域の教育資源を活用して、学びを深めてほしい。

学校では、授業を充実させて最低限の学力を補償していく必要がある。

スマートフォン等の使い方については、家庭での話し合いが大切です。



学校運営協議会

CSは家庭、地域、学校の役割を考える場でもある。

CSという仕組みを活用してどのような学校にするか

校長(学校)の経営方針、ビジョン

あくまでもツールの一つ



学校運営協議会

一般的な導入の成果

特色ある学校づくりが進む
学校と地域が情報を共有するようになる
地域が学校に協力的になる

等

活用の仕方によって

- 保護者の苦情が少なくなる
- 学力が上がる
- 生徒指導上の課題(いじめ、不登校など)が少なくなる

運営協議会のビジョン

あくまでも
ツールの一つ



学校運営協議会

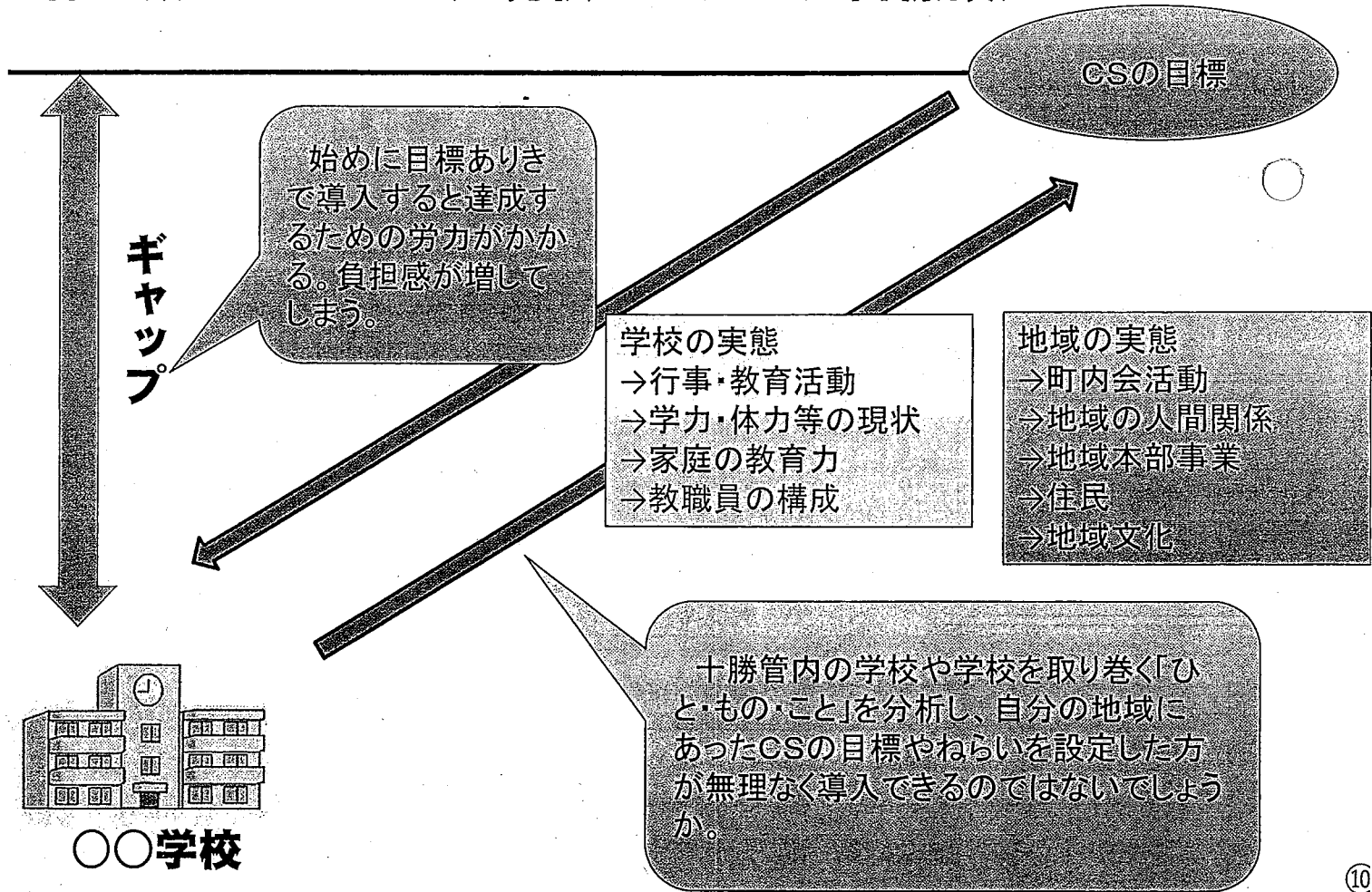
一般的な導入の成果

特色ある学校づくりが進む
学校と地域が情報を共有するようになる
地域が学校に協力的になる

等

活用の仕方によって
→地域が活性化する
→地域を愛する心が育まれる
→町外への人材流出が少なくなる

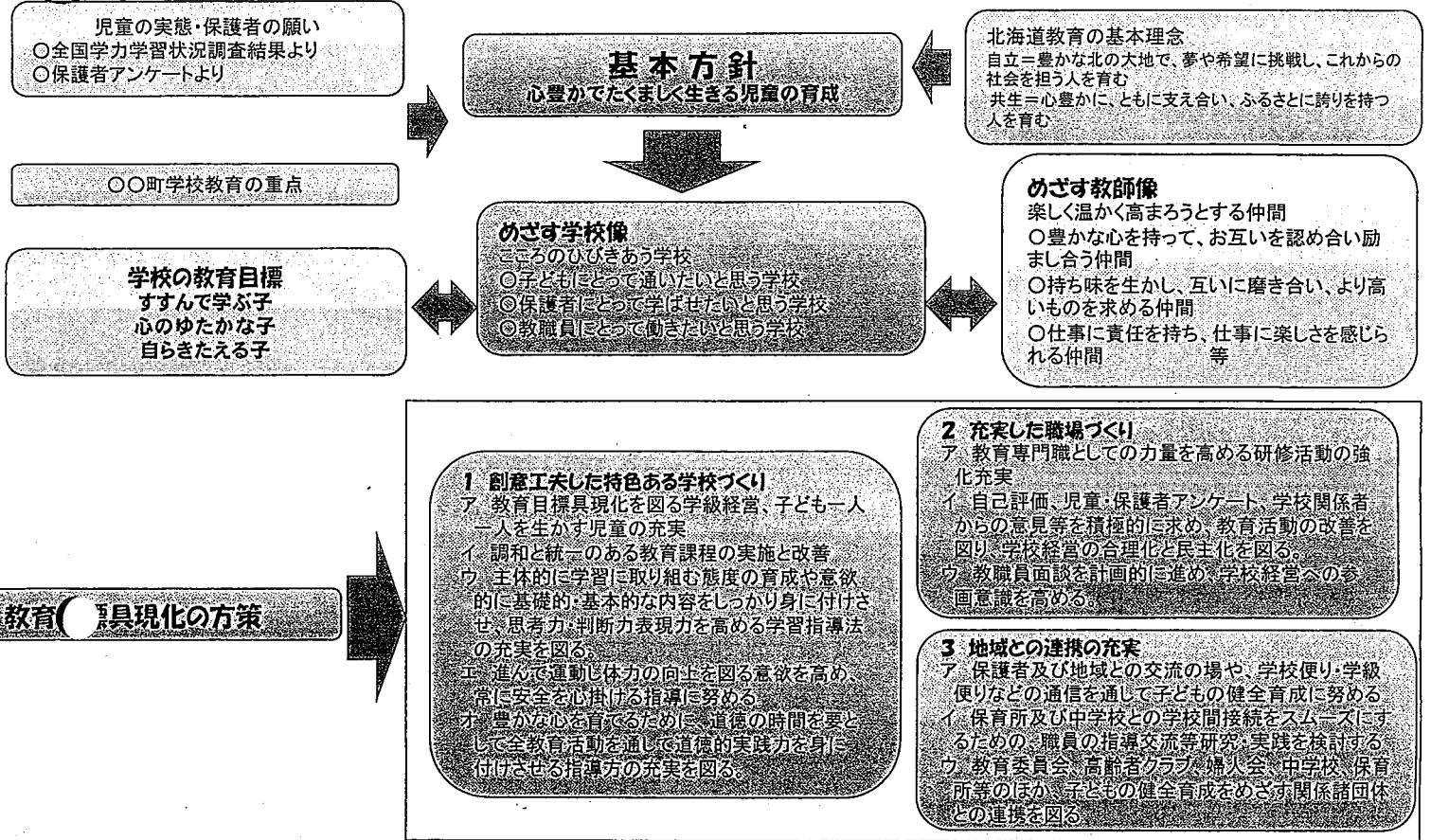
目標達成型ではなく、現状を生かした目標設定



学校運営の基本方針の承認（例 ○○小学校）

6

平成29年度 ○○小学校 グランドデザイン



11

学校運営の基本方針をもとにした熟議（例 日高小学校）

3 地域との連携の充実
ア 保護者及び地域との交流の場や、学校便り・学級便りなどの通信を通して子どもの健全育成に努める

学校の願い

議題1 「学びの環境の充実」

運営協議会での意見

体験的な学習を充実させたい。
地域の学習を充実させたい。
補習学習に取り組みたい。

地域のことに詳しい人が教えに行けばいいんじゃない。
放課後、勉強みてあげたいね。



学校運営協議会

○○学校学校運営協議会
「確かな学力を育む」部会設置

12

学校運営の基本方針をもとにした熟議（例 ○○小学校）

7

- 町内会の話し合い
- 1 地域住民の高齢化
 - 2 地域行事の参加率の低下
 - 3 地域文化(祭、伝統芸能等)の衰退

地域の願い

議題2 「地域の活性化」

運営協議会での意見

- 町を元気にしたい
- 地域をもっと学んでほしい。
- 地域文化を盛り上げたい。

- ・地域を題材にした学習に取り組めばよいのでは
- ・老人クラブへの訪問なんかもいいかもしれない。



学校運営協議会

○○小学校学校運営協議会 「元気な町づくり」部会設置

13

熟議から学校支援へ（例 ○○小学校）

（例）総合的な学習の時間「○○町大発見！」

つかむ

- 個人やグループの課題を設定する
- 自然探索
 - 生きもの
 - 観光
 - 産業

調べる

- 課題に応じて調査する
- 取材
 - 資料
 - インターネット

まとめる

- 調査したことをもとにまとめる
- 新聞
 - VTR
 - ホームページ

発信する

- 個人やグループの課題を設定する
- 自然探索
 - 生きもの
 - 観光
 - 産業

担任は、子ども達の課題設定後、課題を追究していくための道筋を描き、必要な資料等の準備、また、地域の専門家(教育委員会職員、地域住民)に支援が得られるようにする。
→運営協議会を活用する

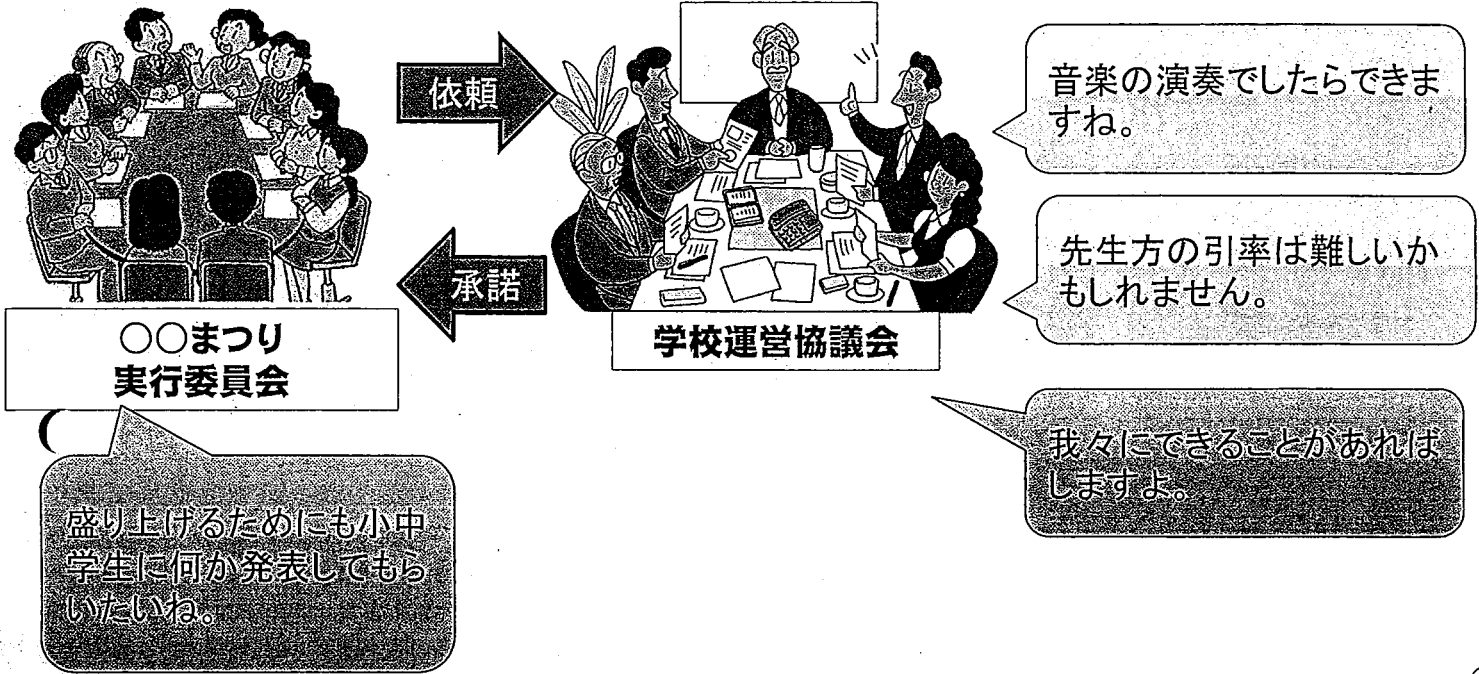
子ども達の学びの成果を学習でお世話になった方々や地域の方に向けて発表する。
→運営協議会を活用する

14

⑧（例）○○町まつり

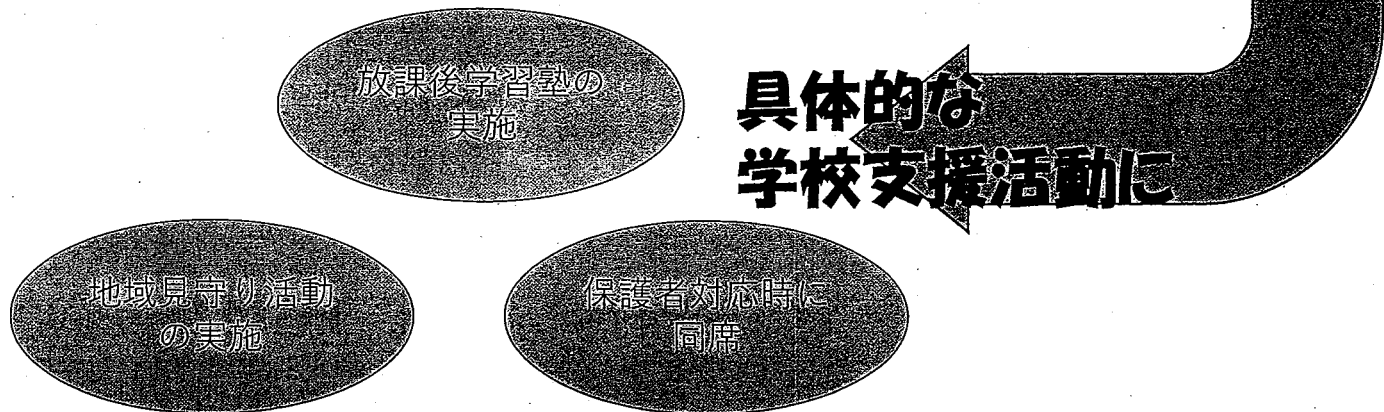
事業のねらい

○○町のよさを見つめなおすとともに町外へ、その魅力を発信し、交流人口増加を通じて地域の活性化につなげる。



CSを効果的なツールにするために
～学校の応援団となってもらおう

可能な範囲で情報提供



CSを効果的なツールにするために ～学校の情報をできるだけ公開する

学力の現状

ある生徒が家の前で、ライターで物を燃やしていた。それを通報され、警察に事情聴取を受ける。学校は、今後も続く恐れのあることから、運営協議会委員長に情報提供

体力の現状

生活面の現状

ある児童が、不衛生な状態での登校が続く。学校は、運営協議会委員である民生児童委員にも情報提供する。

不登校、いじめの現状

モンスターペアレント

ある保護者が、学芸会の配役決定後に再度オーディションをするよう担任に何度も訴える。理不尽な要求が続くことから、委員長及び委員あるPTA会長に相談する。

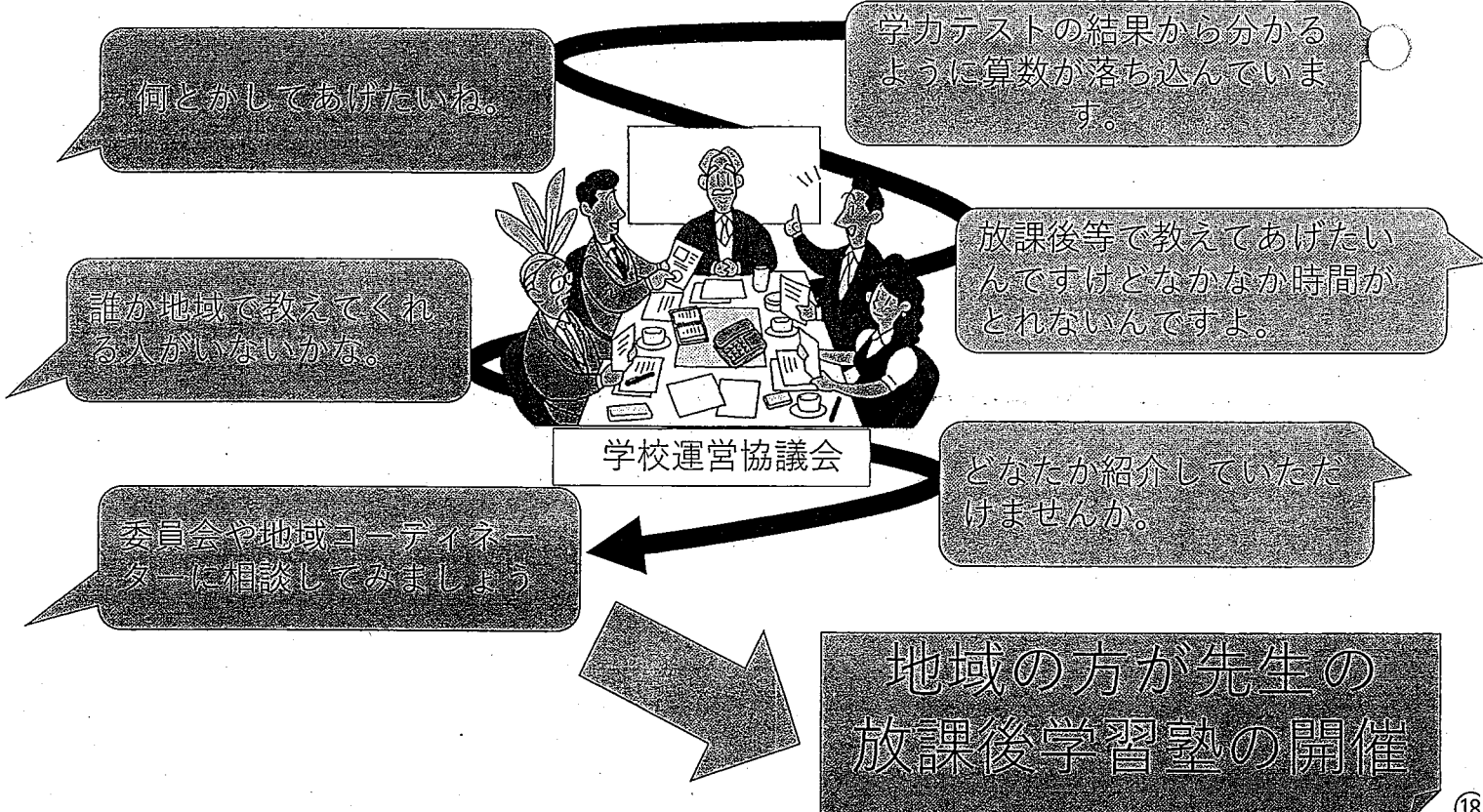
教職員の勤務状況

情報提供することで、信頼関係の高まりとともに、学校の大変さ、先生方の忙しさを理解していただく。

CSを効果的なツールにするために ～子どもを育てる当事者にする

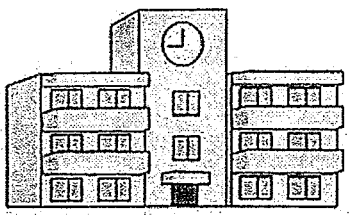
運営協議会委員

学校



CSを効果的なツールにするために ～子どもを育てる当事者にする

10



例えば
学力向上

実態分析
全国学力学習状況調査や
府県テスト等による児童
生徒の学力の実態を把握
する。

計画作成
実態を基にした学力向上
プランの作成や個に応じ
た指導の在り方検討

授業改善
実態に応じた指導法の研
究と日常授業の改善（研
修の日常化）

具体的な支援
放課後や長期休業中の補
習学習の実施。または、
現状では支援が難しい等
の判断。

支援の在り方検討
家庭や地域で何かできる
か、人材等も含めて検討
する。

取組理解
学校かどのような手立て
で学力向上を図っている
のか理解する。

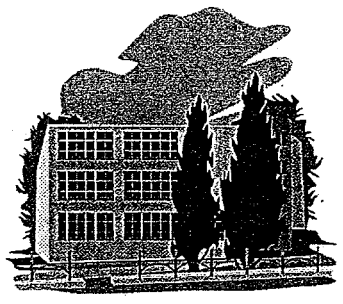


学校運営協議会

19

CSを効果的なツールにするために ～無理せず、これまでの取組を生かす

これまでの学校
校区での取組



- ◎学校花壇・畑整備
- ◎安全パトロール
- ◎PTA整備作業
- ◎学校独自の行事

CSというツール
に組み込んでい
く。

コミュニティ
スクール

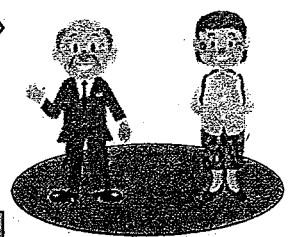


学校運営協議会

- ◎畑作りボランティア
- ◎見守りボランティア
- ◎学習支援ボランティア
- ◎地域避難訓練
- ◎地域との懇談会

地域へ
の要望

CSへ
の要望



地 域

20

CS導入の効果（子供たちにとって）

子供たちを取り巻く環境の充実



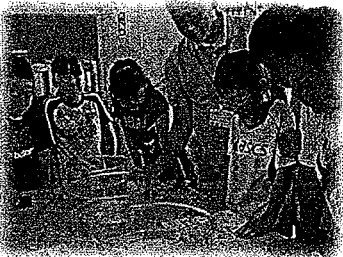
放課後学習の実施

市内全ての小学校で実施（現在は7校）、各学校で10名程度の地域ボランティアを募り、運営している。問題、解答集は教育委員会で作成し、提供している。中学校については、退職教諭の協力のもと実施。



地域見守り隊

市内全ての小学校で実施、町内会を通して地域ボランティアを募り、放課後の下校時間に合わせて通学路の見守りをしている。

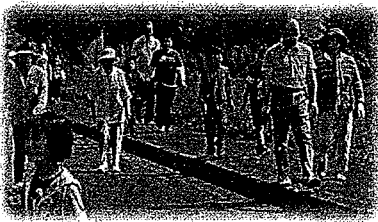


地域の先生

総合的な学習の時間や家庭科等の教科、クラブ活動において、地域の先生として協力いただいている。

CS導入の効果（地域にとって）

地域の活性化



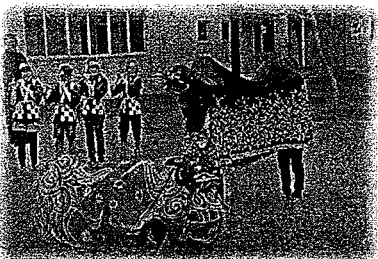
合同避難訓練の実施

町内会主催の避難訓練に学校も参加し、合同で行っている。運営協議会に町内会役員も参加していただいている。（地域行事の参加率上昇）



町内会行事への参加

町内会主催のお茶会や町内清掃に児童生徒も参加している。



地域伝統芸能の継承

地域に古くから伝わる伝統芸能は、後継者の人材不足等により休止や存続が危ぶまれている。そこで、児童生徒が授業の一環として取り組み、地域文化を守っている。

学校を守る体制（応援団）

保護者対応
 なかなか理解が得られない保護者に対して、セカンドオピニオンの役割を運営協議会委員に担っていただく。教育委員会は各学校に対して、問題が発生した場合に内容によっては、運営協議会にも相談するよう助言している。

不登校対応（原因が家庭による）
 程度にもよるが、例えば、市や児童相談所に相談する段階に至っていないネグレストが疑われる場合には運営協議会委員の方と家庭訪問をする。
 また、何らかの障がいがある不登校児に対しては、市教委と連携のもと、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、心の教室相談員を活用して保護者に働きかける。

学校関係者評価委員会
 内部評価と保護者評価のギャップから、学校に求められていることの多さ、それに対応するための労力などを明らかにすることで、学校の状況を理解していただく。

CS導入の大まかなスケジュール

導入の促進（前期）

- ・ 委員会内の組織や運営体制づくり
- ・ 導入の目的（スローガン等）の明確化
- ・ 校長会への情報提供
- ・ 管理職対象の研修会実施
- ・ 先進地域への視察
- ・ フォーラム等への参加
- ・ 学校運営協議会規則の制定
- ・ 予算等の措置

導入の促進（後期）

- ・ 地域への情報提供
- ・ 各組織、団体との連絡調整
- ・ 教職員の研修
- ・ 地域分析（ひと・もの・こと）
- ・ ボランティア等の募集、人材発掘
- ・ 各運営協議会の組織づくり
- ・ 学校のこれまでの取組整理

25

CS導入への既存組織の整理・活用

学校評議員制度

校長が、必要に応じて学校運営に関する意見を聞く制度

学校支援地域本部

地域住民等が学校の求めに応じて、様々な学校支援活動を実施するもの

自治会関係者



学校運営協議会

民生委員

子ども会

学校ボランティア

委員構成（例）
町内会長、PTA役員、婦人会、青年会議所、おやじの会、伝統芸能保存会、ボランティア団体、学校職員

26



◎学校を社会的つながり、地域のよりどころにしましょう
 ◎学校を中心とした地域ネットワークを形成しましょう
 ◎経験を生かすことで生きがいや自己有用感につなげましょう

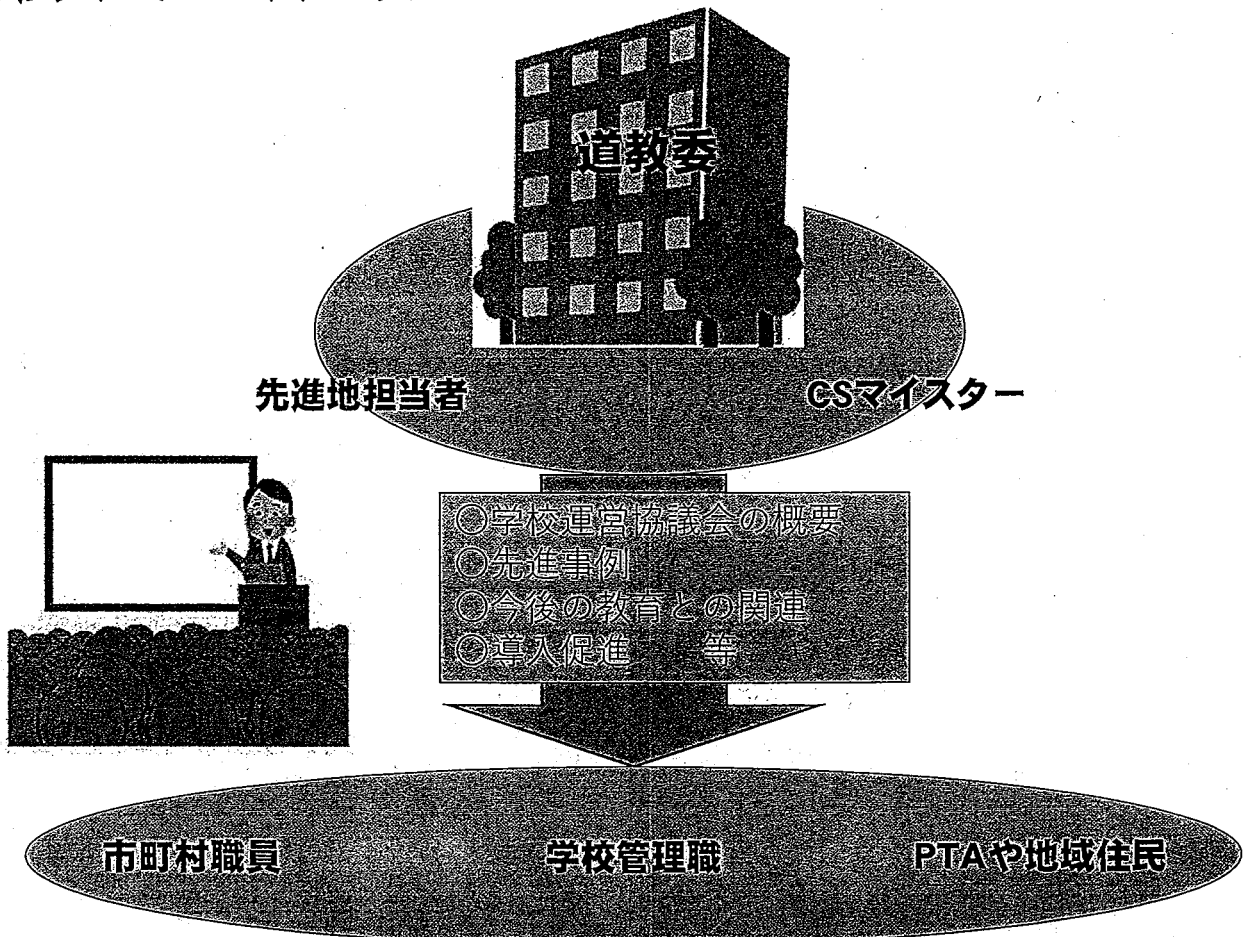
◎地域の方々の理解と協力を得た学校運営が実現します。
 ◎地域人材を活用した教育活動が充実します。

活用の仕方によっては、
 ◎学力向上対策につながります。
 ◎不登校が減ります。
 ◎学校を守る仕組みになります。
 ◎放課後の電話が減ります。



学校運営協議会

CSを広げていくために



成果

- 学校運営協議会の仕組みが理解されてきた。
- 先進事例を通して、内容が理解されてきた。
- 導入地域、検討地域の広がりが見られてきた。

課題

- 導入に対する誤った懸念
 - ・学校、地教委の負担が大きくなる
 - ・地域との連携は図られている
 - ・財政状況が厳しい
- 一般の先生方の理解が得られないといった不安
- 地域人材がないといった不安

地教委職員

学校管理職

地域・保護者

一般の先生方

パターン1

・地教委は積極的だが、学校現場（管理職）が積極的ではない

パターン2

・（現場（管理職）は積極的だが）地教委が積極的ではない。

パターン3

・地教委も管理職も積極的だが、一般の先生方の理解が得られない。

パターン4

・とりあえず、一般の先生方の理解が得られないといった理由を述べる。

研修会の実施から見えてきたこと

パターン1～地教委は積極的だが、学校現場（管理職）が積極的ではない

- 学校現場が積極的でない理由として「学校に押し付けられる」ことで、負担が大きくなると危惧する例が多い。これは、
 - ・導入を決定した後、委員会が学校任せにしてしまう見切り発車を恐れている。
 - ・また、コーディネーター的な役割を担う人材を校内で配置できないことや地域の中で人材が見付けられないことが不安になっている。
 - ・さらに、CSの概要は理解しているが、実際に自校でどのように導入すべきかイメージがわからない、地域とのかかわりができない管理職がいる。
- そもそも、委員会が学校現場を理解していないので、現場と話がかみ合わない。これは、
 - ・委員会が導入を決定した理由が弱い。「地域の子どものため」「学校のため」「地教委からお願いされている」等、拘り定規的な理由に終始している。
 - ・現場は、導入するのであれば、もちろん「子ども達のため」という大前提はある。しかし、それと同様に「少しでも仕事を整理したい」といった本音もある。どうすれば解消できるのか、イメージできていない。

パターン2～（現場（管理職）は積極的だが）地教委が積極的ではない。

- ◎そもそも地教委がCSを理解していない。
- ◎CSを導入する上で、地教委の役割が大きい。そのことを理解しているため、人材がない等の理由で導入をためらってしまう。
- ・教育委員会担当者は、2、3年で他部署に異動してしまう。
- ・（教育のことがわからないので）現場に対して指示がしづらい。

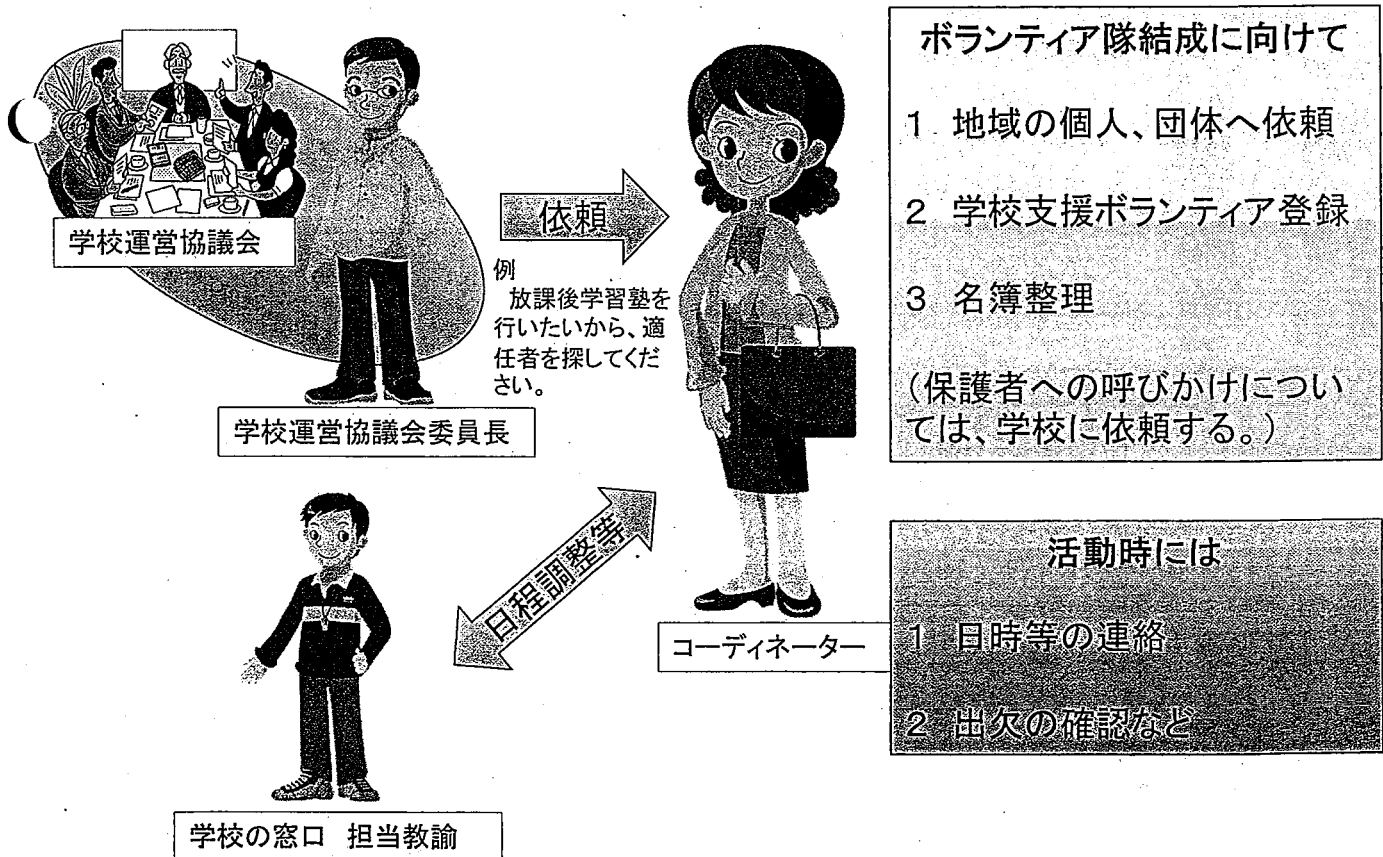
パターン3～地教委も管理職も積極的だが、一般の先生方の理解が得られない。

パターン4～とりあえず、一般の先生方の理解が得られないといった理由を述べる。

- ◎CSを理解していないので、負担が増えることへの不安
- ◎外部の方が学校に入ってくることを快く思っていない。
- ◎新しいことに取り組まなければならないといった誤解

31

CSを成功するためのキーマン（コーディネーター）



32

CSを成功するためのキーマン（運営協議会委員長）



学校運営協議会

- 1 協議会を招集する。
- 2 話し合った内容をまとめる。
(学校運営に関する意見等)
- 3 関係者、関係機関との調整をする。



学校運営協議会委員長



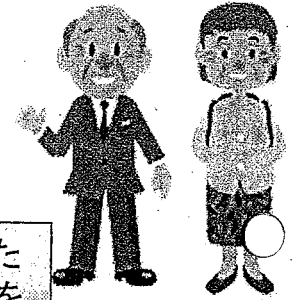
協議会で話し合った内容を基にコーディネーターと話し合う。



コーディネーター



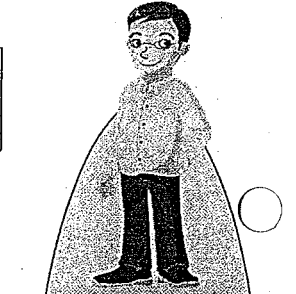
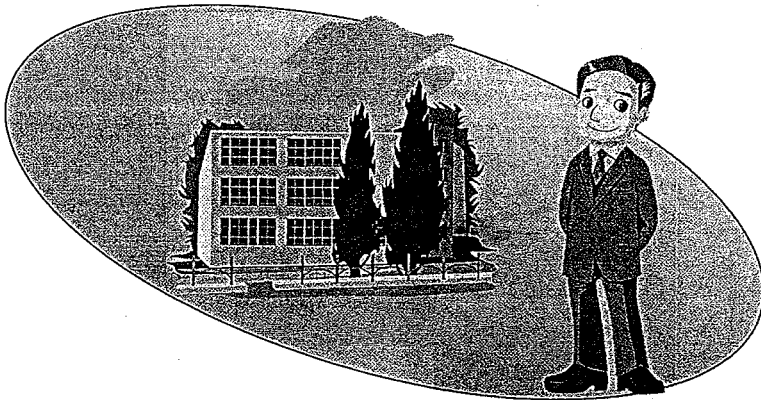
協力を依頼したり、地域の要望を聞く。



地域

CSを成功するためのキーマン（学校の窓口）

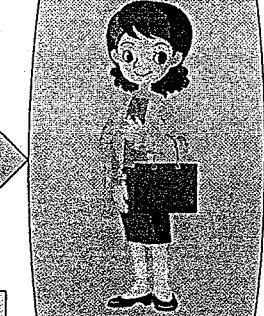
- 1 会長と協議会の開催日時を確認し、関係者に開催案内を出す。
- 2 PTA役員会で学校の要望等をまとめておく。



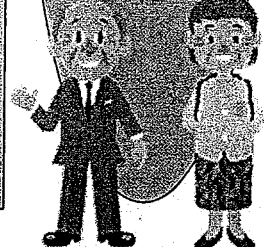
学校運営協議会委員長



- 1 話し合った内容をまとめる。(学校運営に関する意見等)
- 2 関係者、関係機関との調整をする。
- 3 校内の要望等をまとめる。
- 4 担当教諭と日程等の調整を図る。(事業内容によっては)
- 5 話し合いの内容をPTA役員や保護者に周知する。
- 6 委員会に報告



コーディネーター



地域